



## 粉雪は積もるが、ぼたん雪は積もらないの

### 雪は、小さな氷の結晶

上空の気温の低い所でできた雲は、小さな氷のつぶが、集まってできています。この氷のつぶは、氷の結晶になっています。

上空は気温が低いので、空気中の水蒸気が水のおつぶにならないで、氷の結晶にくっついて、だんだん大きくなっていきます。これが、雪のおつぶです。

地上付近の気温が、0よりも低いときに、落ちてきた氷の結晶は、とちゅうでとけないで地上に降ってきます。これが雪です。雪のおつぶは、地上へ落ちてくるとちゅうでも、さらに、まわりの水蒸気をくっつけて、大きくなります。

### 粉雪はよく積もり、ぼたん雪は積もりにくい

雪には、さらさらした粉雪や、べたべたしたぼたん雪があります。

粉雪は、気温が低いときに降ります。粉雪が降るときには、上空にたいへん冷たい空気が入りこんでいるので、大雪になることが多くなります。

ぼたん雪は湿っていて、雪のおつぶが大きく、気温が高いときに降ります。ぼたん雪は大きな雪のおつぶが、どんどん降ってくるので、見た目には雪が積もりそうな感じがします。しかし、降ってもすぐにとけてしまい、積もりません。

ふつう、ぼたん雪が降るのは、地上の気温が2ぐらいですが、気温が0ぐらいに下がったときには、ぼたん雪でも積もることがあります。

ところが、粉雪は湿り気が少なく、小さな結晶のまま降ってきます。それに、まわりの気温も低いので、よく積もります。(監修・村山 貢司)

